

都道府県名	奈良県
-------	-----

．学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	吉野町立吉野小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	障害児学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	16
児童数	29	29	36	32	37	36	4	203	少人数加配も含む

．研究の概要

1．主題（テーマ）

「生きる力」を育てる少人数指導の在り方を求めて  
—— 個が生きる学習活動の創造 ——

2．内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生 算数  
基礎的・基本的な内容の徹底を図ることが難しく、児童の数量に対する関心や認識、興味に差が出やすい教科であること。また、低学年からの系統的な学習を重要視しなければならないことから、算数科に絞って全学年で取り組むこととした。

(2) 年次計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p>学習指導体制と学習指導法の工夫改善</p> <p>仮説</p> <p>従前の指導形態や指導法を見直し、少人数指導や複数指導の利点を生かした効果的な指導の在り方について研究を進めることで、児童一人一人の実態に応じたきめ細かな指導ができ、基礎的・基本的内容を身に付けさせることができるようになるのではないか。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「確かな学力」の意味、算数科における基礎基本の定義や「少人数指導」の捉え方や考え方、評価についての理論研究（新しい概念の獲得） 《講師招聘研修・文献研究》</li> <li>・児童の発達段階や実態を踏まえた、指導形態・指導法の研究</li> <li>・分かる授業、楽しい授業づくりのための教材・教具の開発 《研究授業を中心とした実践研究、先進校視察》</li> <li>・教育課程外の教育活動（はげみタイム・かがやきタイム）の試み（基本的学習事項の習熟、計算力の向上）</li> <li>・児童の実態調査（学力診断テスト、少人数指導・習熟度別学習に関する意識調査） 《実態の把握と問題点の分析》</li> </ul>

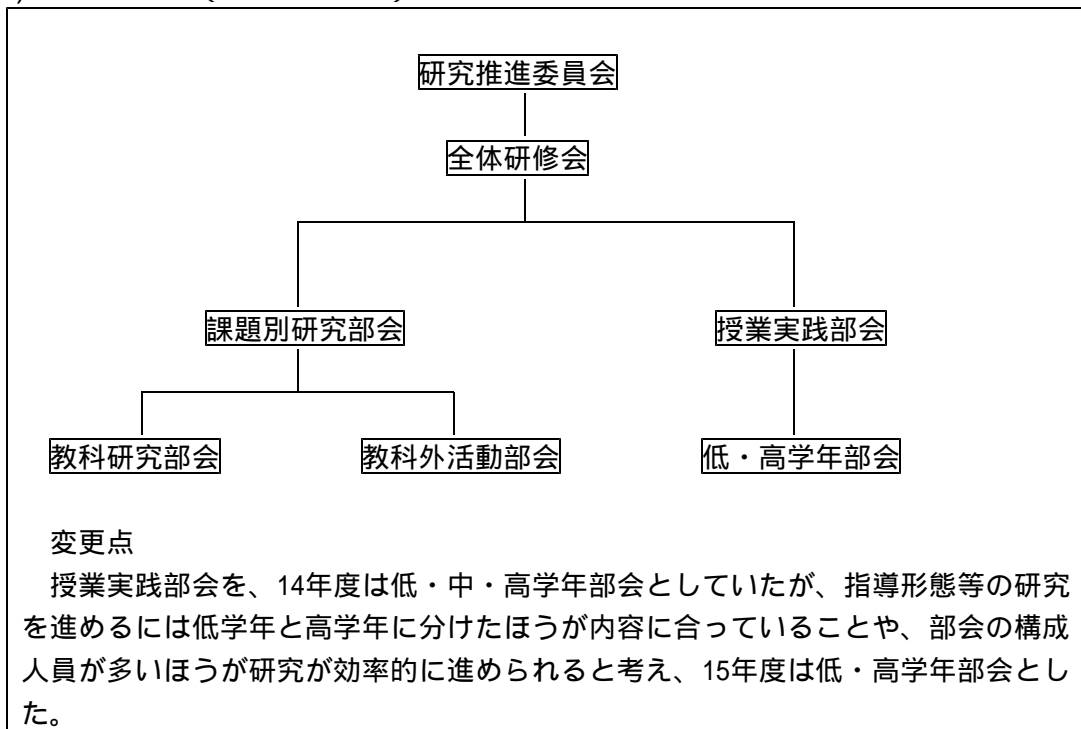
	・保護者の意識調査と分析
--	--------------

平成 15 年度	<p><b>テーマ</b> 習熟度別学習と発展的・補充的学習指導の在り方と教材開発</p> <p><b>仮説</b> 習熟の程度や興味・関心に基づく課題に応じた習熟度別の少人数指導や、発展的・補充的学習を行うことで、よく分かり、よくできるようになったという充実感や学ぶ楽しさを味わいながら、主体的・意欲的に学習に取り組む児童を育てられるのではないか。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算数科の特性や内容に関する研究</li> <li>・「習熟度別学習の捉え方や指導法の工夫」「発展的・補充的学習の意味や指導の在り方と教材開発」等についての理論研究 《講師招聘研修・文献研究》</li> <li>・習熟度別学習の構造化(単元構成とグループ編成、学習内容と教材開発、支援の在り方等)</li> <li>・発展的・補充的学習の指導方法や教材の工夫 《研究授業を中心とした実践研究、先進校視察》</li> <li>・教育課程外の教育活動(はげみタイム・かがやきタイム)の充実(基本的学習事項の習熟、計算力の向上等、前年度の反省を生かした取組)</li> <li>・児童の実態調査(学力診断テスト、少人数指導・習熟度別学習に関する意識調査) 《前年度と比較できる実態の把握と問題点の分析》</li> <li>・保護者の意識調査と分析、啓発活動</li> </ul>
----------------	---

平成 16 年度	<p><b>テーマ</b> 児童の学力や学習活動の評価を生かした指導の工夫改善</p> <p><b>仮説</b> 児童の学力の評価を生かした指導の工夫改善を行えば、教師の評価力や評価の妥当性を高め、よりきめ細かい個に応じた指導や支援ができるようになるのではないか。また、児童が自己を客観的に評価する目や個性を伸ばす自己評価力を育成することができるのではないか。</p> <p><b>研究内容・方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価と指導の一体化を進める研究 評価規準を基にした評価項目の明確化 評価活動の工夫(時期、場面に応じた有効な評価方法の工夫) 評価と支援(形成的評価を基にした支援の在り方) 評価計画を明確にした指導計画の作成と指導の効果的な展開 児童の自己評価力の育成</li> <li>・習熟度別学習の構造化(単元構成とグループ編成、学習内容と教材開発、</li> </ul>
----------------	--

<p>支援の在り方等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的・補足的学習の指導方法や教材の工夫 《研究授業を中心とした実践研究、先進校視察》</li> <li>・ 教育課程外の教育活動（はげみタイム・かがやきタイム）の充実（基本的学習事項の習熟、計算力の向上等、前年度の反省を生かした取組）</li> <li>・ 児童の実態調査（学力診断テスト、少人数指導・習熟度別学習に関する意識調査） 《前年度と比較できる実態の把握と問題点の分析》</li> <li>・ 「生活基盤」「学習基盤」の確立を目指した取組の推進</li> <li>・ 保護者への啓発活動</li> </ul>
---

(3) 研究体制（研究組織図）



・ 平成15年度の成果及び課題

<p>成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 低・高学年部会で、同室複数指導・均等割少数指導・習熟度別指導等の指導形態をどのように組み合わせて学習を進めていけば、日常的で、個に応じた指導を大切にしつつ、「学び合う」場面を多く創り出せるかということを中心に授業実践研究（講師招聘授業研究：3回）を行ってきた。そのことにより、単元全体の指導について、より計画的（学習内容と学習形態の効果的な組合せを考える等）に授業を行っていくようになってきた。</li> <li>・ 指導者自身が授業力を高めることの必要性を感じ、授業の展開に5段階の場面を設け、それぞれの場면을意識した教材研究を行い授業を展開するようにした。5つの場면을細かく丁寧に教材研究して授業に臨むようになり、指導者個々の授</li> </ul>
--

業力が向上した。

- ・ 評価規準をもとに時間レベルの評価ができるような補助簿を作成し、使用するようにした。また、学習中に座席表を使った指導を行うようにした。まだまだ十分な活用はできていないが、個に応じた、きめ細かな指導が以前に増して進められるようになった。
- ・ 基礎的・基本的な内容の定着を図ったり、内容の理解を深め数学的に考える力を伸ばしたりするための教材、教具の工夫を行った。また、少人数指導では、指導者によって操作の手順が違うと後の学習に影響が出るため、必要な内容について、操作手順の統一を行った。
- ・ 先進校の取組に学ぶ研修（フロンティア校等の研究発表会に参加：4校）を行い、本校の取組に生かすことができた。
- ・ 教育課程外の活動「はげみタイム」（単元の学習内容の補充、発展の学習に取り組む時間として隔週で水曜日5校時に実施）、「かがやきタイム」（計算の力を高めるために繰り返し練習などに取り組む時間として火曜日と木曜日の業前に実施）に取り組み、教科の学習内容の定着や計算の力の向上を図ることができた。
- ・ 平成15年6月に学力診断テスト（教研式CRT目標基準準拠検査）を行い、前回実施分と比較・考察した結果、「関心・意欲・態度」は、全学年でよくなっている傾向にある。他の項目についても、全体に低位層が減り、中・高位層が増えているという結果が得られた。児童の算数科に対する意識が向上し、少人数指導の取組や教育課程外の活動「はげみタイム」「かがやきタイム」の取組の効果が現れてきているものと考えられる。
- ・ 児童の実態調査（少人数指導・習熟度別学習に関する意識調査）を実施予定（平成16年2月）。前年度の結果と比較、考察することで、今年度の取組の成果を確かめ、今後の課題を明らかにすることができると考える。
- ・ また、客観的な資料ではないが、日々の児童の姿に以下のようなことが見られるようになってきた。少人数での学習形態に自然な姿で臨めるようになってきた。学習に対して前向きで意欲的な姿が多く見られるようになってきた。集中して取り組み、苦手な課題でも粘り強くやり遂げようとするようになってきた。計算力が伸びてきた。

#### 課題

- ・ 個に応じたきめ細かな指導のために「指導と評価の一体化」を進めなくてはならない。そのためには評価規準を基にした、妥当性の高い、効率的な評価の方策の研究を行わなければならない。
- ・ より効果的に習熟度別学習を進めるために「導入の仕方」「展開の仕方」「課題達成」などの違いを明確にした授業展開の仕方を工夫していかなければならない。
- ・ 「学力の向上」目指す取組を進める上で、大きな課題として見えてきたのが「学力形成」の基となる「生活基盤」「学習基盤」の形成の重要性である。本校児童は、この点が弱いと思われるので、これを克服する取組を進めなくてはならない。
- ・ 本校の「学力向上」に対する取組に理解と協力を得るための、保護者に対する啓発活動や広報活動に力を入れなくてはならない。

・ 学力把握のための学校の取組について

- ・ 全学年での「学力診断テスト」( 教研式 C R T 目標基準準拠検査 ) の実施と考察
- ・ 奈良県の学力テスト速報を基にした、本校児童の実施結果との比較と考察

・ フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 中間発表会の実施 ( 平成15年11月20日 )  
学力向上フロンティア校をはじめ、県内各校より約80名の参加を得て実施。2学年 ( 2年生、6年生 ) での公開授業 ( 習熟度別・コース別少人数指導 ) と、研究の中間報告、研究協議を行い、参加者より貴重な意見等をいただいた。また、皇學館大学の勝美芳雄助教授による「算数科における確かな学力の向上を目指して - 少人数指導を通して - 」と題した講演会を実施し、本校はもとより、各校の今後の取組に示唆を与えたいいただいた。
- ・ 学校訪問 ( 平成15年10月21日 )  
奈良県十津川村教頭会の学校訪問を受け、授業参観の後、本校の研究についての説明を行い、取組に対する感想や意見をいただいた。
- ・ 本校のホームページに研究の概要を掲載



【新規校・継続校】	↳ 15年度からの新規校	14年度からの継続校	
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 25学級以上	↳ 7～12学級 19～24学級	
【指導体制】	↳ 少人数指導 一部教科担任制	↳ T・Tによる指導 その他	
【研究教科】	国語 生活 体育	社会 音楽 その他	↳ 算数 理科 図画工作 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	↳ 有	無	